

陳情第70号	受理年月日	平成30年3月8日
付託委員会	総務財政委員会	
件名	八幡市民会館及び駅前エリアの保存について	
要旨	<p>北九州市は八幡市民会館と八幡図書館を公共施設マネジメントの最初の標的にし、図書館を解体して市民会館を閉鎖した。</p> <p>八幡市民会館は、我が国で最も早い時期に建てられた市民会館であり、著名な建築家・村野藤吾の設計による歴史的価値の高い建物である。八幡市民会館を中心とするエリアは、戦災からの復興と昭和の面影を残す貴重な都市空間であり、同会館がこのエリアの象徴である。また、同会館は、歴史を刻む3つの遺構、長崎街道、九州鉄道、戦災復興シンボルゾーン・大通りが交わる地点にある。周辺の歴史的建造物や遺跡とともに面としての広がりの中で捉えることで、更に深みのある存在意義が浮かび上がってくる貴重な建物である。</p> <p>更に、1958年の建設当初より建築作品としても高い評価を受けており、1960年には建設業協会からすぐれた設計及び性能を持つ建物に贈る第1回BCS賞を受賞し、2015年には国際的な学術組織DOCOMOMOが、日本を代表するすぐれたモダニズム建築として選定している。会館前面には大きな広場を備え、広場から主玄関に容易にアクセスできる開かれたデザインは、戦後の民主主義を体現している。</p> <p>地域の子供たちの芸術・文化活動の拠点施設でもあり、特に中学校・高校の吹奏楽の演奏会場や、高校生の演劇活動の大切な拠点であった。北九州市が子供たちの教育を受ける権利を奪ったということである。北九州市には、教育条件、そして、親子、市民が文化を楽しむ中で町を好きになり、そこで生きることを選んで、人口減少に歯どめがかかる施策を行う責任がある。</p> <p>については、次のとおり措置していただきたい。</p>	
	記	
	1 八幡市民会館を時代遺構として後世に残すことを決断し、八幡東区	

(続 く)

活性化の貴重な資源として活用すること。

2 世界遺産・八幡製鐵所関連施設、九州鉄道、更に長崎街道の視点から、八幡市民会館を中心とする八幡駅前エリアの保存と活用を図ること。